

Platform

恐怖の
とばりが
下りるとき

虚構の世界には、
本物の怪異がいる。

station

- VRChat : Midnight Alone
縺ウ繩ウ縫ウ縫呐→縫オ螺・雉械@縫工
- cluster : 縺ウ繩ウ裏ウ縫ウ縫、縫ヨ縫、縫上 k
- Resonite : 旧鐘寝更生病院
- Real.W : 長照山 陽運寺

Platform contents Vol.13

Gravure: Anata Hotel 4
Midnight Alone VRChat 12
縷り綱り縫う縫い→縫う蝶・雉槭@縫工 縷り綱り縫う縫い、縫う縫、縫うk	cluster 18
旧鐘宿更生病院	Resonite 24
長照山 陽運寺	Real.W 30
あとがき 36

第13号のテーマは「ホラー」。
世の中には怖いことが沢山ありますが、VRの中では味わう怖さはまさに現実離れした恐怖です。
現実ではせいぜい暗いところを歩くぐらいですが、仮想空間の中では幽霊がでてきたり、床が抜けたり、怪物に追いかけられたり、なんでもあります。
異世界に迷い込んだかのような体験を、是非あなたの後ろにいるお友達と体験してみてください！

え？ その部屋には他に誰もいないって？

編集長

世界には、色々な町がある。
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、
違った人たちがいて、
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、
きっと違うのだろう。
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」



Welcome to our Hotel.





Somewhere,

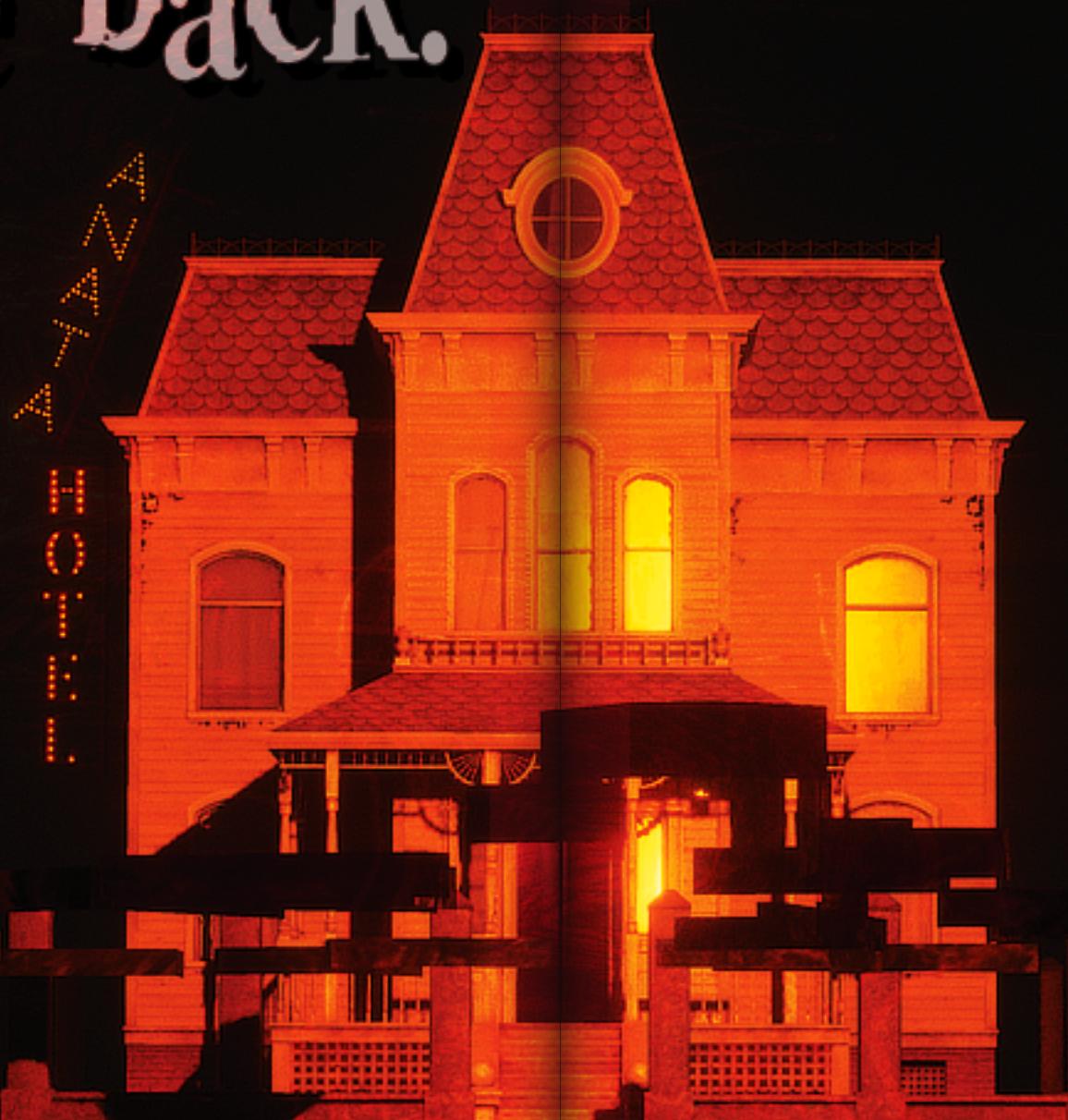
Someone,
Looking at YOU.



What was Left
Underground...



Welcome back.



...to HELL

World: ANATA HOTEL

Created by iron biscuit

忘れてしまった

あの日の

“こわい”

こわい、という気持ちはどこからやってくるのだろう。
それは未知という暗闇の沼から、
一人歩くあなたの背中へ、のそりと這い上がつてくるものだと、私は思う。

けれど、それは縁もゆかりもない何処から現れるのではない。むしろそのどちらとした底知れない沼は、あなたの日常の隙間にこそ、ぽかりと口を開け待つていてる。

思えば幼い頃には、何もかもが楽しいのと同じくらい、たくさん怖いものがあった気がする。昼間楽しく遊んだ公園が、見慣れた家の廊下が、通い慣れた学校が、ひとたび夜の闇に沈むと、とてもなく恐ろしい場所に見える。思わず足がすくみ、ありもしない何かを探してしまう。見知ったのと同じ場所であるはずなのに、なんとも不思議ではなかろうか。

VR CHAT



『Midnight Alone』というワールドを訪れてみてほしい。
ぜひ深夜に、あなた一人きりで。



こわい、と。

歩いてみよう。どこにでもあるような夜の街を。そしてきっと、あなたは年を経るに連れ摩滅していく、瑞々しい気持ちを思い出す。

けれど、子供の頃はどうだったろう。時間を戻すことは難しいけれど、でも背丈を縮めることはできる。この仮想世界でなら。試しに100センチほどまで縮んでみよう。その時視界に見えるのは、見るもの全てが大きく、新鮮で、そして時に不気味に見える、かつてあなたが5歳の頃に見ていた世界だ。

それは何の変哲もない住宅街の一角だ。坂を登る道に沿って並ぶ、少し古びた住宅やアパート。まばらな街灯。ぽつりと立つ自動販売機や電話ボックス。そこに驚かせてくるギミックも、恐ろしい怪物もありはない。ただただ、深夜の暗がりに沈んだ街並みだ。大人になれば飲み会帰りにでも出会う普通の風景だ。



ふと見上げた巨大な自動販売機が、突然唸りだし、びくっと身がすくむ。それが間欠的なコンプレッサーの駆動音と、幼いあなたは知る由もない。通りがかった民家から聞こえた電話のコール音は、夜闇の中から囁う魔物の声のように聞こえる。暗がりに沈んだ街角には、どんな化物がいるかも分からなくて、とても近づくことはできない。工事中の門の向こうから響いてくるのは、猫の盛り声ではなく、地獄の底から呼ぶ餓鬼の呻きだ。

幻だ、全て。

現実世界でならそう切って捨てるともできるだろう。だが、この仮想世界には現にそういうものが本当にある。だから、あなたは捨てきれない。そういう妄想が、不意に形を成し、あなたに襲いかかってくるという恐れ虞れを。

それはあたかも、世界のつまらなさを知ってしまった大人と違い、いまだ世界の未知を信じている子供のようだ。ゆえにあなたは眞実、この『Midnight Alone』を歩く時、幼き時分の瑞々しく『こわい』を取り戻すことができる。

嗚呼、しかし、本当に取り戻してよかつたのだろうか。その『こわい』は。

一度心に巢食った疑心、恐怖は、暗がりの中でふとした瞬間にあなたの肩へ手を掛ける。今、夜道を歩くあなたの背後で、煮詰めたような暗闇がすうつと立ち上がつて――。

(文..思惟かね)

Midnight Alone (作: Koyuri)
ACCESS in VRChat

怨念 「廃棄物」の

このワールドは何？

2020年に制作したホラーワールド。軽量だが、粗雑に置かれたアセットや、目を覆いたくなれるほどエラーのメッセージの画像が並んでいる。このワールドは、ユニティでアップロードを繰り返すたびに増える、データの廃棄物をモチーフ。その恐ろしさは誰も知らないだろう。



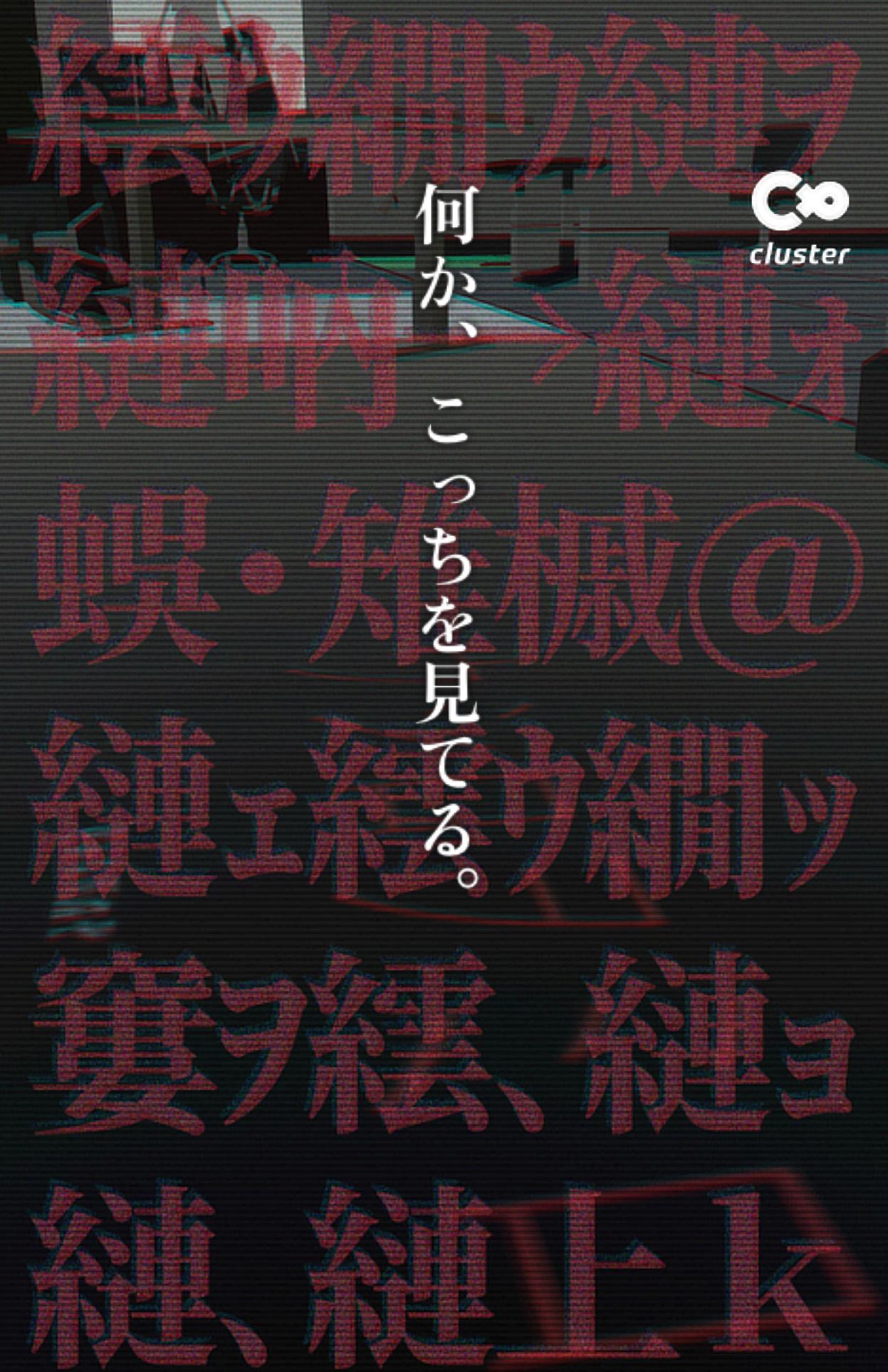
ホラーに関する様々な事象は、その時代の人々が抱える不安や社会問題が如実に反映されるらしい。

ゾンビ映画を例にすると、人間がゾン

ビ化する原因是放射線であったり、新種のウイルスだつたりと、制作当時の人々が恐怖している対象に応じて様々に変化を遂げてきた。現代のゾンビは全力疾走したり、瞬く間に世界中がゾンビパンデミックに見舞われる例も少なくないが、これは情報の早さや拡散という「ネット社会」の負の一面がモチーフになっているらしい。このようにそれぞれの時代に適合した「恐怖」を提供するからこそ、ゾンビ映画はホラーの金字塔になっていると言われる。

ホラーにおいては「赤い部屋」が有名だろう。突然現れる「あなたは赤い部屋が好きですか?」というポップアップ広告を消せば死んでしまう、という話だ。ネット黎明期の象徴とも言えるポップアップ廣告だからこそ、当時の人々にはイメージしやすい「ホラー」であったのだろう。かくいう著者も、2000年代当時は突然出てくるポップアップ廣告（赤い部屋ではない）に、未曾有の恐怖を覚えたものだ。「P.C.が乗っ取られたのか?」「正体不明の何かに監視されているのか?」などと。故に赤い部屋に、妙なりアリティを感じたものだ。

何か、こつちを見てる。



奥の方から 何か、こつちを見てる。

ワールドに入つて奥の方へ進むと、ロボットのアバターの姿が見えた。顔が黒く塗りつぶされていて、素性が全くわからない。まるで幽霊を見ているような不気味さを感じさせる。

前置きが長くなってしまったが、今回紹介するのはメタバースにとって「身近」で、捻くれた言い方をすれば「メタバースの社会問題」とも（いささか強引にせよ）見做せるホラーワールドだ。ワールド名は「縺ウ縲ウ縺ヲ縺呐→縺オ蝶・雉槭@縺エ縺ウ縲ツ寢ヲ縺、縺ヨ縺、縺上k」。名前が文字化けしているが、不気味なバグに満ちているワールドだが、作者は「削除済みユーザー」と表記されていて、著者の知る限り素性が明らかではない。

最初の階段を降りると、机や椅子が散乱したオフィスルームに着く。その奥ではロボットが立ち、じっとこちらを見てくることに気がつく。このロボット、clusterにおいて



アバターからの ダイイングメッセージ

ワールドに「ウシロヲミロ」「ココカラデロ」など、恐怖を与えるような赤い字。その中にはロボットのアバターが不自然に倒れたまま動かなくなっている。謎のメッセージは仮想空間の幽霊が発する「何か」だろうか？

勇気を出して近づくならば……蜃気楼であったかのように、身体は床を通り抜けて落下してしまう。その下の階もひどく散らかったオフィスルームで、やはり奥では顔が黒く塗り潰されてしまったロボットが立っている。1体……いや、2体だ。

再び近づくと、床があるはずなのに再度床下に落下する。第3階層では、1体のロボットが床に倒れ伏し、奥の廊下では幽霊のように壁をすり抜けるロボットが徘徊している。そして壁には、アバターやワールドの制作に使われる、ゲーム開発プラットフォームUnityなどのエラーメッセージなどが描かれている。

成程、このワールドについて分かった気がする。エラーデータ、あるいはバージョンアップデータに伴って不要となつた古いデータなどが、この「墓場」に捨てられているらしい。もしくは、それらが混ざり合い、強い怨念となって一つの「ワールド」として変化したのだろう。迷い込んだ者が落とされるのは、「ごみ箱に捨てられた」「データなどによる復讐なのだろうか。

あのロボットは、自作アバターを使えるようになつたユザーが、「不要物」として捨てられた成れの果てとも解

アップロードするたびに
棄てられていくもの

ココカラデロ→
立て続けに吐き出す
無数のエラー→
ココカラデロ→

ココカラデロ→
自然と壊れてゆく
ワールドギミツク→
ココカラデロ→
ワールド製作者は
もういない



には順わぬ行動原理を宿すに至る。では、
文字化けしたワールド名は、本当はどん
な名前だったのか？私たちはそれを一顧
だにせず無下に捨て去り、エンコードの
仕方を忘れてしまっただけなのかもしれない。
かつてはそれを聞き取れ、またよ
く見知っていたのかもしれないのに……。
本ワールドを産み出した「削除済みユ
ーザー」もまた、かつてclusterに存在し、
そして理不尽にも捨て去られた何かの怨
念であるのだろうか……？

こうした考察を重ねると、我々が指
本で行う「データ削除」が、急に恐ろし
く残虐なものであると思い知る。現実世
界では「物を捨てる」ことに少しば戸惑
いそうなのだが、なぜメタバースだとこ
うも簡単に存在を抹消できるのだろう。
捨てたモノ、あるいはかつて切り離して
きた私たち自身の一部をなしてきたもの
から復讐される可能性も考慮せずに。

冒頭で触れた、多くは目的も記憶も失
つて当て所もなく彷徨う骸、すなわちゾ
ンビのことを再び思い出してみよう。原
因自体は時代と共に移ろうものの、ゾン
ビの空恐ろしさが、かつて人間であつた
ものの成れ果てが持つ不気味さに求めら
れることは、どの時代も変わらない。か
つて我々の同胞であったものが、単に動
かぬ遺骸ではなく異形の存在と化し、今
やおよそ我々には解読不能な雄叫びを発
し、人間離れした異質な動きとおよそ人
類であるのだろうか……？

廃病院の 人体探索記録

目

を開けるとそこは真っ暗闇の中、少し遠くを見ると懐中電灯の明かりが見えてくる。どうやら私は宵闇の世界に迷い込んでしまったみたい。

恐る恐る足を運んで懐中電灯を手に取ってみる。すると横にインスタントカメラが見えた。手に取り何枚か撮ってみる……ううん、やっぱり持っていくのはやめることにしよう。きっとこういう時に撮った写真って良くないものが映つたりするものだから……。

誰もいないはずのワールドでただ一人で暗闇と会話している。とりあえず明かりを確保したから周りを見回してみるとにする。どうやらここはどこかの山道みたい。

今にも消えそうな懐中電灯の明かりを頼りに歩いていくと、工事中の柵が置かれたトンネルが見えてくる。どうしようかな？でも他に進む先もないし……。行くしかないよね？私は恐る恐る月明かりの届かないトンネルの中に足を踏み入れていく。

意外にもあっさりとトンネルを抜けてしまった。なんだ、驚かせてもう。なんてことないじゃん！そう思つていると、目の前に病院と書かれた門が目に入った。

何この門。かなりやばそうな雰囲気がするんだけど……。門に手を掛けると「ギギッ」。思わず背筋が「ピンッ！」と強張ってしまうような音を立てて開いていく。何とも言えない感覚を味わいながらなんとか病院の鉄の門を開けて行く。

 resonite

写真／一兎

開けたのはいいけど……今からここを探索するのね……なんだか先が思いやられるなー。そんなことを思いながら病院に向けて足を運んでいく。それにしても随分と草が生い茂っている場所、人が出入りしなくなつてから数十年とかたつているような、そんな雰囲気って感じかな?

なんて考えながら病院の入り口にたどり着いた私は……正直もう帰りたいなんて思っていた。そんなことを考えながら私は木製の扉が奏でる軋む音を聞きながら扉を開いていく。

どうやらここはいわゆる精神病院等に分類される病院らしい。しかもあの、あまりよろしくないタイプのほうの……。なんでそう思うのかって?だってね、病院の壁に思いっきり赤い色のそれが見えちゃつてるからね……。帰つていい?あっだめ? そう……。しようがないからもう少し探索することにする。

この病院は平屋の木造になつていて、どうやら別館と渡り廊下でつながつてゐるみたい。まずは診察室と書いてある部

屋に入つて……なんでのこぎりとドリルがあるのかな?かな?そしてなんであたり一面赤いのかな……。やっぱり帰つていい???

ねえいい?わかってる?明かりは手に持つてあるのかな?かな?そしてなんであたりが見えなくて、診察室って何があるのかなつて入つたら部屋の真ん中に歯医者さんにあるような椅子があつて、その横にテーブルがあつてなんだろつて覗いたら赤く染まつたのこぎりとドリルだよ?

もう帰りたいよーー……。もうここで部屋の扉が閉まりでもしてたらと思うと……。いや辞めておこう。こういうところで変なことを考えるとそれが現実になつてしまいそุดからね。

そもそも別館って何があるんだろう?とそんなことを考えながら進むと別館に

そんな感じで見て回った私は、別館の方に行くために渡り廊下に進んだ。渡り廊下もね、雰囲気がねもうね。相変わらず懐中電灯しかないし……。

さっき診察室で見た光景より恐ろしいものはない!と言わんばかりに余裕そうな私の目の前に現れたのは、まるで牢獄だった。

ついていた。

さつき診察室で見た光景より恐ろしいものはない!と言わんばかりに余裕そうな私の目の前に現れたのは、まるで牢獄だった。

そつか、精神病院と言つたらこんな感じになつちゃうのか……。なんだか心がいたたまれなくなりながら一つ一つその中を見ていく。扉を開けるとそこには一枚の布団とちよつとした机が置かれている。それにしてもどの部屋もそこらじゅうが赤くなつてゐる。なんだかなあ。ある意味冷静になつてゐる私は何とも言えない気持ちになつていてた。

一番奥の部屋に行くにつれて部屋や扉が頑丈になつていく。やっぱり暴れちゃう人とか多いのかな?どうしようもないのかもしれないけどわいそุดよね。怖いだけではない感情が湧き上がつてくるのを感じながら最後の部屋をのぞくと、そこにはかつて自ら命を絶つたと思われる印が残されていた。なんとなくいたたまれなくなり手を合わせてゐると……。

旧鐘安厚生会病院

救急診療所

保健医療機関

(文・ことはしろ)

そのうち一人のネームプレートが見えなかつたのは……きっとバグか何かだよね……？

病
棟

こんなのが聞いてないよ？！だってこのワールドは、ホラー要素無いですよって説明欄に書いてあったんだもん。なのになんで？！走りながらふと中を見るとそこには4mはありそうな蛇が居た。

思わず「わあっ？！」っと声を出してしまい、その蛇は私にめがけて詰めかけてくる。その蛇から逃げるようすに病院の入り口を振り返ったその時、目の前に赤い目が光る狼がいた、いや正確には人狼だ。

もうほんとに心臓が止まるかと思つたよ。ドヤ顔の二人を見ながらこの人達がお化けじやなくてほんとに良かつたと思ったのだつた。

その刹那、建物の外をふと何かが横切るのが見えた。え？！この場所にはホラーギミックは存在しないはず。なんで？少しパニックになりながらその正体を確かめるべく私は部屋を出て廊下から窓越しに草木の生える中を覗いた。今度はガサガサと音を立てる音が聞こえる。私はパニックになりながら急いで病院の入り口に向けて駆け始めた。

そう、今私が居るこのワールドはパブリック。いわゆる誰でも入ることが出来るような設定になっていたのである。Resoniteのなんでもアイテムを召喚できる特徴を最大限に生かして私のことを驚かしていたのである。

私はそこで固まってしまった。そうして放心状態で居る私を見て。二人が姿を表した。

これは見なくてもわかる。絶対に大笑いしているつてね。

四谷怪談のゆかりのお寺

長照山 三遊運寺



Real World

四谷怪談 お岩さま縁の寺

長照山 三遊運寺



えんが切れた話

江戸時代にあった怪談話「四谷怪談」で有名なお岩様を祀っていることから「於岩稲荷」と呼ばれた。

このお寺では、悪縁を切るご利益があり、全國から多くの参拝者が訪れ、パワースポットとして知られている。



いやあ、今年の夏は暑かったですね。7月の時点で40度

だなんて、ニュースで聞いた時にはひっくり返るかと思いましたよホント。

けど、なんとか少しずつ空気の気配も変わってきたかなって感じですね。

で、まあ「暑い」っていうと、冷房をガンガンにかけてアイスを食べるのが一番いい対処法なんですが、まあ違うこともやってみようかなって思って、昔ながらの対処法、「怪談を聞く」ってのをやつてみようかなって思ったんですね。

ベタ?まあね。で、ネットで聞くんじやなんか風情がないなって思って、わざわざ

新宿の末廣亭、行ってきたんですよ。で、到着したらですね、まずは自分が名前を聞いたことがある嘶家さんが出てるかを確認するんですよ。ちょっとした

ご縁から知っているのは、えーっと、柳谷はん治さん:三遊亭吉窓さん:柳谷福

治さん:ああ、出てなかった。いや、よく考えたらこの方は真打だからこう

いうところではやらないのかな?落語のシステムがよくわからん。まあいいや、出てないなら出てないなりの楽しみ方と

思って取りあえず入りましょう。入場料3000円?こんだけ沢山の出演者がない

財布には嬉しいのでありがたくこの値段で見させていただきますけどね。

入ってみたらどうやら本当に怪談話をやるみたいで。「えー、毎度ありがとうございます。夏といえば怪談ですが、四谷怪談として有名な話を一つ!」

どうやら怪談で有名なお岩さんの嘶をするらしい。これはいい時期に来たなと思って楽しみに聞いてみようかなと。四谷怪談、タイトルは聞くけど実際に嘶を聴いたことはありませんでしたからね。

惡縁を除き良縁を招く

於岩稻荷

奉福禄主
令和六甲辰歲元



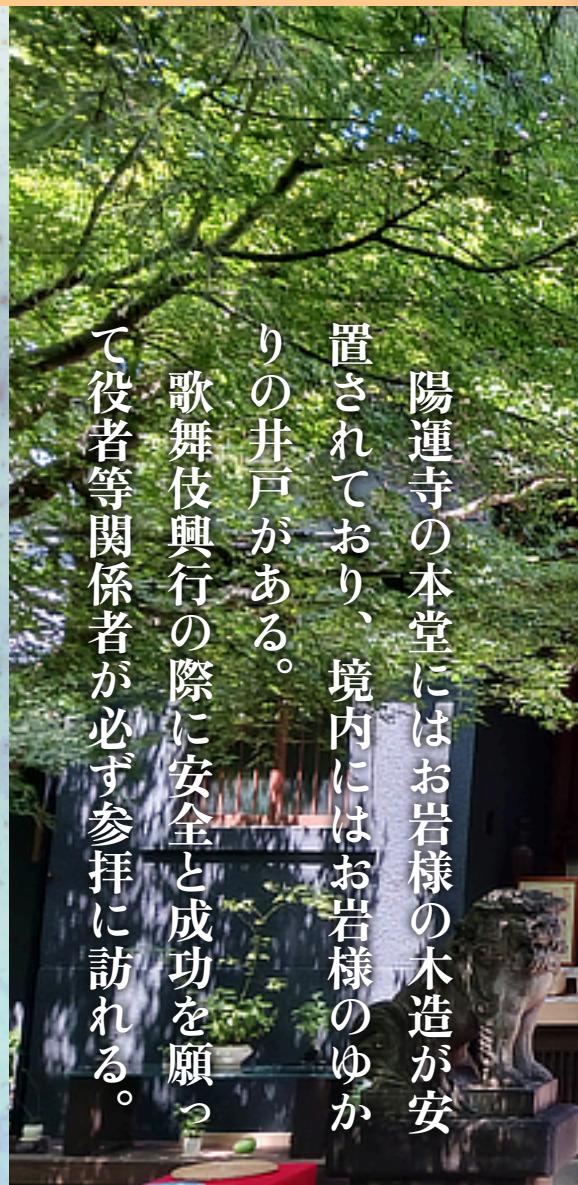
陽運寺の本堂にはお岩様の木造が安置されており、境内にはお岩様のゆかりの井戸がある。

歌舞伎興行の際に安全と成功を願つて役者等関係者が必ず参拝に訪れる。

於岩稻荷とは？

現在、四谷左門町には於岩稻荷田宮神社と於岩稲荷陽運寺が道を挟んで両側にある。また中央区新川にも於岩稲荷田宮神社がある。

於岩稲荷が複数できた要因は単純に儲かるためであり、お岩の浮気に対し見せた怨念から、男の浮気封じに効くとして古くから信仰を集め、賽銭や土産物で地元経済が潤った。



「というお話。おあとがよろしいよう

で」

いや、面白かったなあ。四谷怪談のがいいですね。ほら、最近だと歌になくなつて、今更流行り出した「死神」とかの方が出てきそうな感じじゃないですか。でも、あえての四谷怪談。流行りに流れられない感じがとてもいい。漸家さんがそういう考えをしていたかはわからないけど。

それで外に出てきて、チエーンのコートヒー屋で700円ぐらい払ってアイスコーヒーを飲んでふと思いついたんですけど、四谷怪談って元々は創作なのに、お岩さんを祀った神社があるんですね。どこにあったかなと色々検索してみると、どうやら四谷三丁目にあるらしいんです。今いる新宿からだと、20号線を歩くか電車に乗るかで行けるんですよ。意外と近いんで、折角だし行ってみましょうかね。まあ、この灼熱地獄の環境で歩く人はいないから、電車に乗っていきましょうか。東京メトロ丸ノ内線。あいだは2駅。4分。IC払い178円。

四谷三丁目について、3分ぐらいかな？

歩く距離だったから、とりあえず自販機でスポーツドリンクを買って、灼熱の中歩いてみると到着。なるほどこれがお岩さんの神社ですか。思ったより小さいかな？といふ感じ。神社の敷地、端から端まで歩いて15歩ぐらいって言えば伝わるでしょうか。大体そんな感じの広さ。そのサイズの中にお参りする所もあるし、手水の所もあるし、小さな稻荷神社もあるし。そして青々と草が生い茂ってるし。密度がすごいね。

そしてここ、どうやら縁切りの神様として今は広まっているんだとか。近くの電柱には「縁切りの次は縁結び」とか書いてあるし。面白い着眼点の広告。元は創作物とはいえたられたくないから5円を投げてお参り。でも、縁切りかあ…。別に切りたい縁があるわけでもなし。人の縁にはありがたいことに恵まれてきたし。どうしようかな。

「切りたい縁はございません。せめてたたらないでください」

なんだかこう、ビビりながらのお参りでした。

この神社のはす向かいには同じくお岩さんを由来とするお寺もあるので一応こ



←陽運寺の境内にカフェも併設されています。参拝のついでに、抹茶やコーヒーで一杯飲んでみてはどうか。

長照山 陽運寺

〒160-0017
東京都新宿区左門町18番地

アクセス
JR中央・総武線「信濃町」駅より
徒歩8分

Web
URL : <https://oiwainari.or.jp/>



さてそろそろ帰ろうと思ったら、来た。
ポツ、ポツと。雨が。雷が鳴るまでには駅に逃げ込めばいいけど。とりあえずコンビニで傘買って駅までダッシュだ！

…あ。
財布に金がない…。
お岩さん、「たらないで」つていつたことに怒ったのかもしれないけど、このタイミングで「えん」を切らすのは反則だよお！

ないか、と思い出たので行くことに。本屋から歩いたから裏門から入ることになりましたが。

鬼子母神といえば、人を食べる鬼の女神が自分の子どもをさらわれたことでその罪深さに気が付いて改心した、みたいな話だったはず。この話、意外と怖い話だよなあ。これまで単なる食事だと思っていたことが罪だと気が付くとか。自分がこうなつたらもう日常の一拳手一投足にビビっちゃいそう。そんなことを思いながら歩きました。

で167円。

雑司ヶ谷に来たあたりで天気が若干曇りつつあって、ゲリラ豪雨の予感。それに雑司ヶ谷に勢いで来たはいいけどゆかりのなにかがあるわけでもなし。どうしようかなーと思つたんだけど、そういうえば雑司ヶ谷と言えば鬼子母神があるじゃ

ちらもお参り。大きさ的にはこっちの方が広いし人いる。中にカフェ的な所もあるし、水が撒いてあって手入れされている感じ。お寺には5円を入れてお参りとかしなくていいんだっけ?とマナー講師に怒られそうなあやふや知識で一応こちらもお参りしましょう。

Gravure : Anata Hotel station

撮影 : Tokikaze

VR CHAT

Midnight Alone

執筆 : 思惟かね
撮影 : 一兎

Co cluster

縷り縛り縛り縛り
縛り縛り縛り縛り
縷り縛り縛り縛り
縷、縛り縛り縛り
縛、縛上k

執筆 : sun
撮影 : Tokikaze

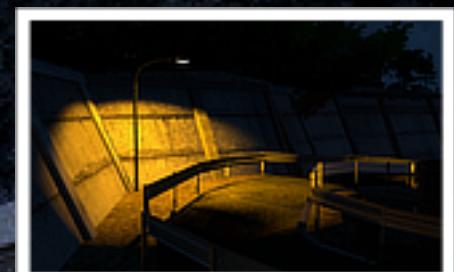
旧鐘嶺更生病院

執筆 : ことはしろ
撮影 : 一兎

長照山 陽運寺

執筆&撮影 : ニッソちゃん

感想などは
#Platform通信欄
へぜひお寄せください！



station

Vol.13

Platform あとがき

ニッソちゃん
編集長

仮想空間の中で味わう恐怖からは、とりあえずHMDを脱げば逃げることができます。怖くなったら一息ついで違う列車に乗って違う空間に行きましょう。次の停車駅は「kawaii!」。お手持ちの切符を無くさないように。

思惟かね
編集/デザイン

オカルトは信じないたちで心霊スポットもへっちゃらですが、VR空間には本当に「いる」ので怖くて怖くてたまりません。取材のワールド巡りが辛いと感じたのは今回が初めてです…。

SUN
ライター

職業柄、怪異や人外、異常存在と交流し、時には彼らとYouTubeを観ることもありますが、倫理観が崩壊したシミュレーションゲーム実況を見せて、彼らが困惑している様子しか得られない栄養素があります。

燕谷古雅
編集/デザイン

なんでこんなテーマを決めたのか。会議の時、私が「ハロウィーンがあるじゃないか」と言ったかもしれない。

わく
ライター

最近、徳島にある日本唯一の犬神憑きを落とす神社・賢見神社に行ってきました。犬神を作る呪術は本当に残忍で怖いから各自調べていただくとして、ホラーファンには憑き物関連も好きな人がいると思うので旅行にオススメです。祖谷温泉などと合わせてぜひ（@・wk・）

ことはしろ
ライター

今回訪れたワールドは真っ暗で探し探し散策しました。内容も当時の出来事に基づいていますよ！私は普段メタバースで経験した日常・思いを「ことはしろの手記」として書き残しているよ！

Tokikaze
カメラマン

転びそうになった時やスマホを落としそうになった時、些細な恐怖は日常に溢れています。そして危機をギリギリで回避して安堵の笑みを浮かべた時、人間は“恐怖の味”を知るのです。ちなみに今回のテーマは私が推しました→

一兎
カメラマン

二週間程悪夢にうなされ、フレンドを巻き込みながら頑張って撮影しました！もうホラワはごめんじゃー！

Nag
校正

「ホラーを（安全な形で）楽しむ」というのはどういう経験なのか、というのはVR以後で変化しているかもしれません。本号がその開拓の一助となることを。

STAFF | 編集長 | Editor Chief
ニッソちゃん

誌面デザイン | Design
思惟かね
sun
ことはしろ
ニッソちゃん

校正 | Proofreading
Nag

執筆 | Writer
思惟かね
sun
ことはしろ
ニッソちゃん

撮影 | Photographer
Tokikaze
一兎

ニッソちゃん
わく(裏表紙)

Platform Vol.13 【恐怖のとばりが下りるとき】

発行 : Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

初版 (2024/10/31)

< To the next JOURNEY.

2024. 10. 31

Our
Journey

Continues...

Platform

恐怖のとばりが
Vol.13 下りるとき